



JAPANESE RED CROSS TOYOTA COLLEGE OF NURSING

Vol.40

ITOSUGI

いとすぎの丘



01 大学行事

いとすぎ祭
新卒者交流会
国際交流
オープンキャンパス2024

02 地域貢献

03 きらめく卒業生

04 学生生活

05 Information

日本赤十字豊田看護大学

発行日/2024年11月

01 大学行事

■ いとすぎ祭(大学祭)

2024年度いとすぎ祭(大学祭)を開催しました。感染対策の面から学内開催(原則学生のみ参加)の形式でしたが、いとすぎ祭実行委員会が中心となって企画を考え実現しました。チーム一丸となって答えを導き出す脱出ゲームやビンゴ大会、キッチンカーによるランチ、軽音サークルの演奏、地元有名人(俳優 佐野勇斗さん)からのビデオメッセージなど工夫を凝らした企画に始終大盛り上がりでした。

また、大学祭の中の一企画としてDMACサークルと教職員の協同による能登半島地震災害復興支援企画も開催され、多くの学生や教職員、後援会(在学生保護者)の方々、オープンキャンパスに参加していた高校生の方にもたくさん来ていただきました。



いとすぎ祭実行委員長 田中里歩

5月25日(土)に、第21回いとすぎ祭を開催しました。

テーマは『絆』です。「コロナウイルス感染症の対策をしながらでも楽しむ方法を見つけて、友人との貴重な時間を楽しんでほしい。そして、より絆を深めて思い出をつくらせてほしい」という願いが込められています。

最初の頃は、初めて委員になるメンバーばかりでどうしたらよいかわからない状態でしたが、準備を進めて開催することができました。今年度は、昨年度に比べて感染対策による制限が少なくなったため、今まで制限されてできなかったことを中心に企画を考えました。そのひとつであるキッチンカーは、前例がない企画で業者の方々との連絡や場所選びなどに苦労しましたが、当日参加した学生が好みの昼食をキッチンカーで購入し楽しそうに食事をする姿を見たときは、達成感を味わうことができました。ほかの企画でも、仲間や友人と楽しそうに参加している姿から、今までより絆が深まっているなと感じ、とても嬉しく思いました。

委員のみんなや先生方と力を合わせて、いとすぎ祭を無事開催できたことに感謝しています。ひとりではできないことも多くの人と協力してできたことから、周りにいる方々の大切さを実感できました。参加してくださった学生のみなさんもうございました。記憶に残る大学生活の一つになっていたら嬉しいです。



石川県七尾市物産展



脱出ゲーム(謎解き)

DMAC サークル長 齊藤彩加

DMAC(災害支援サークル)は、いとすぎ祭で「能登半島地震災害復興支援」を行いました。この企画の目的は、能登半島地震被災地の復旧・復興に貢献するとともに、学生が被災地への支援について考える機会を持つこと、また支援活動を通じて、学生間での「絆」や被災地との「絆」をつくることでした。能登半島地震から数ヶ月が経ち、ニュースで取り上げられることも少なくなって来ましたが、しかし、現地では復興が進んでいない状況を知り、私たちにも何か出来ることはないかと思い、活動を始めました。

内容は、被災地や救護活動の写真展示、七尾市物産展、いとすぎ便(被災地の新鮮野菜の注文販売)を行いました。七尾市物産展では、高澤ろうそく店様、JA能登わかば様にご協力いただき、ろうそくやパウンドケーキ、うどんなどを販売しました。たくさんの方が足を運んでくださり、大盛況でした。

活動を通して、学生間や七尾市との繋がりから「絆」が生まれたように思います。コロナ禍以降、人々との繋がりが希薄になっている今だからこそ、繋がり助け合うことが大切だと学びました。また、実際に現地へ赴きボランティアとして活動するだけでなく、離れたところからの支援を行った経験から、何かしたいという思いを声に出すことで一歩を踏み出し実現につなげることができると感じました。今後も人々との繋がりを大切に私たちに出来ることを考え、活動していきたいと思っています。



■ 新卒者交流会

5月11日（土）に、本学では初めてとなる「新卒者交流会」を開催しました。

この会は、前年度の卒業生を大学にお迎えし、久しぶりに級友や教職員と語り合って絆を深め、今後のキャリアアップにつなげられるよう企画しました。

当日は、33名の卒業生（17回生）にご参加いただきました。卒業記念に贈呈されたハナミズキや赤十字のシンボルツリーであるイトスギが見える食堂で、級友や教職員とお茶やお菓子を味わいながら思い出を語り合ったり、近況を報告し合ったりして歓談を楽しみました。

卒業生からは「元気がもらえた」「みんなも頑張っているとわかって励みになった」「先生と話せてよかった」といったコメントが寄せられ、明日へのモチベーションにつながったことがうかがえました。教職員たちも、ひたむきに、着実に、歩を進めている卒業生の姿から元気をもらいました。

ご参加の皆様にお礼を申し上げるとともに、さらなるご活躍を祈念します。



■ 国際交流(タイ赤十字看護大学への派遣)

赤十字のグローバルなネットワークを活かし、本学は2018年よりタイ赤十字看護大学とMOUを結んでいます。今年度は6月にタイの学生を受け入れるとともに9月に本学学生5名を派遣しました。

2年 高垣英里

私たち2年生5名は派遣学生として1週間タイ赤十字看護大学（STIN）で交流プログラムに参加しました。STINの学生寮に宿泊し、多くの学生と関わり、語らい、互いの文化や考え方に触れることができました。何よりSTINの学生や先生が心から歓迎して迎え入れてくれたことに感激しました。授業や実習への参加、病院の訪問を通して、タイと日本の医療体制の違いを知りましたし、赤十字社やスネークセンターなどの施設見学では、赤十字の活動内容や災害時の備蓄品が異なっていることもわかり、その国・その地域に応じた医療や活動が提供されていることを実感し、視野が広がりました。週末、STINの学生と寺院を訪れた際には、建物や仏像について様々なことを教わり、タイの文化を愛して誇りに思っているのだと感じました。この研修を通して、タイの人々の国民性や性格、慣習に触れることができ、私にとって貴重な経験となりました。



■ オープンキャンパス2024

2024年度のオープンキャンパス（以下OC）は、3つのテーマを設定して開催しました。5月25日（土）は「受験生のためのOC」、8月22日（木）は「救うをかたち～災害看護・国際救援にふれよう～」、9月28日（土）は「保護者のためのOC」です。

5月OCはいとすぎ祭（大学祭）と同時開催とし、受験対策セミナーの後はいとすぎ祭にも参加し、本学学生の企画・実行力や生き生きとした姿を見てもらいました。

8月OCでは、災害看護体験としてトリアージや救急法を学ぶブースの他、日本赤十字社愛知県支部の全面協力の下で災害救護用テントの見学や救護服の試着体験も行いました。また、フローレンス・ナيتينゲール記章を受章された本学教員である伊藤明子先生による国際救援活動の講演では、多くの参加者が目に涙を浮かべ聞き入っていました。

5月は144名、8月は456名、9月は104名と、予想を上回る多くの高校生および保護者の方が参加してくださいました。参加された皆さまが、本学で共に学ぶ仲間となってくれる日をお待ちしています！



02 地域貢献

■ 本学学生に碧南警察署から感謝状が贈られました

本学4年生の内藤小乃花さんが、高齢者の特殊詐欺の被害を未然に防いだとして、碧南警察署から感謝状を贈呈されました。

内藤さんはアルバイト先で、電子マネーを購入した高齢のお客さんから使い方を聞かれたため事情を聴き、詐欺を疑って警察署に通報したことから被害を防ぐことができました。

主体的に行動できる内藤さんのような学生がいることに、本学はとても嬉しく、誇らしく感じています。



【内藤さんより】

今回、詐欺被害を防止することができてとても嬉しく思っています。またこのような感謝状をいただけて誠に嬉しく思っています。これからも積極的に声かけをし、地域に貢献していきたいです。

当時、70代の女性の方が不安そうに声をかけてくださりました。私は常に笑顔で挨拶をし、話しかけやすいような雰囲気を作るようにしています。これは、臨床実習での経験で、日頃から笑顔で人と接し声をかけやすい雰囲気を作ることで、患者さんが気兼ねなく不安などの感情や思いを表出できるのだと気づいたからです。

また私は、常に相手のことをよく見て、些細な変化でもすぐに気づき助けられるよう心がけています。このことが詐欺防止にも繋がったのだと感じています。これらはすべて、看護師にとっても大切なことだと思います。

私は『「ありがとう」と、言われるように・言うように』という言葉大切にしているので、看護師として人を助け、感謝される人になりたいという思いを忘れずに、これからも将来に向けて勉学に励んでいきたいです。

■ 豊田地区トレセンを本学で開催

8月20日(火)・21日(水)の2日間、本学を会場として豊田地区トレセンが実施されました。

トレセンとは、青少年赤十字(Junior Red Cross)が主催するトレーニングセンターのことを指します。ここでは、リーダーとして必要な自主・自律の精神を身につけると共に、赤十字や青少年赤十字に関する知識や技術への理解を深めます。青少年赤十字は豊田市内の全小中学校が加盟しており、各学校から集まった児童・生徒約100名が参加しました。



トレセン1日目に、本学の教員と本学のサークルの一つである青年赤十字奉仕団所属の学生から、看護師という職業についての講話を行いました。教員の中島准教授からは、今まで出会った患者さんとの経験に基づき、看護師の仕事への思いややりがいについてお話しし、学生の篠崎彩乃さんからは、看護師を目指したきっかけや本学で学んでいる内容、青年赤十字奉仕団に入った理由等をお話しました。少し難しい内容の話もありましたが、子どもたちはみんな真剣な表情で話に聞き入っていました。

■ 豊田市井郷交流館で公開講座を開催

9月10日(火)に豊田市の井郷交流館で公開講座を開催しました。今回のテーマは「歩行は百薬の長」です。23名の方が参加してくださいました。「フレイルについて」のミニ講座では、メモを取りながら聞いていただき、関心の高さが伺えました。その後、ご自分の体力を知ってもらうために、学生スタッフと一緒に握力や5回立ち座りするスピード、歩く時のバランスなどを測定しました。ご自分の測定値と年齢の平均値を比較して、「ウォーキングを続けていきます」「歩こうと思いました」など前向きな声を聞かせていただきました。



03 きらめく卒業生

長野赤十字病院勤務

徳武憂希さん

2019年3月卒業（12回生）



今回は、赤十字病院で看護師として働きながら、アメリカ看護師認定試験NCLEX (National Council Licensure Examination)を受験し、見事合格された徳武さんにインタビューしました。「今になって、『看護がおもしろい』って思えるようになりました」と話してくれた徳武さん。試験の合格が自信につながっているようでした。

Q 本学卒業後の看護師のキャリアは？

A 卒業後は血液内科に就職しました。新型コロナウイルス感染症の蔓延で、病院がコロナ病棟を新設した際に、その病棟に異動になりました。そこで重症患者を担当していたため、感染症が落ち着いた2022年から、ICU勤務になりました。

Q NCLEXを受験しようとしたきっかけは？

A 小さい頃から英語が好きで、高校卒業まで習っていました。ワーキングホリデーでも英語が学べますが、学ぶだけでなく「海外で働くなら看護師がいいな」「他の国で看護師ができれば楽しいかも」と思いました。また、NCLEXは、カナダなどアメリカ以外でも看護師国家試験として認められているため、選択肢が広がると思い、受験しました。

Q NCLEX合格への道のりは？

A 受験をする決めてから、1年かけて勉強しました。NCLEX対策用の参考書がありますが、私はU-WORLDという問題集アプリを活用しました。同時に、自分用の勉強資料も作りました。医療英語が難しく、最初は1問解くだけで3時間かかっていました。問題を解きながら医療英語を覚えていました。勉強は、日勤後や、日勤から深夜勤の間の寝る前などの隙間時間に行いました。休日は、「ここまでやる」と決めて、一日勉強しました。大変だったのは、受験資格を証明する大学卒業に関する資料の取り寄せでした。大学の事務の方が迅速に対応してくださりととても助かりました。このような苦労があったからこそ、絶対にやり切ろうと決意しました。

Q NCLEXはどんな試験内容ですか？

A 試験は、日本の会場でコンピューター上で行いました。選択式ですが、問われる内容は日本の看護師国家試験とは全く違います。患者の状況から使用する薬剤、対処法が問われます。呼吸器や動脈圧ラインなど、ICUに勤務しているから解ける問題も出題されました。学生のうちからこのようなことを勉強するのかと驚きました。アメリカでは、看護師の地位は高く認められ、お給料にも反映されているそうですが、それ相応の責任を負うのだと思いました。

Q 職場の支援はありましたか？

A 受験することは師長さんに報告しました。勉強のために病院備品のパソコンの使用を認めてもらったり、病棟の委員会の仕事を極力割り振らないなど、勉強に集中できるよう配慮くださりました。また、模擬テストの成績が伸び悩んだ時は、主任さんが話を聞いてくださり、心が救われました。状況を理解してくれた職場に感謝しています。合格した時は、病棟のスタッフだけでなく看護部長さんも喜んでくれました。



▲職場にて（写真右が徳武さん）

Q 今後の目標は？

A いつかはアメリカで働き、日本の看護との違いを発信できたらと思っています。「今すぐアメリカで働く」と決断すれば、英語を勉強して手続きを進めるとは思いますが、結婚や出産という女性としてのライフサイクルを考えると悩んでしまいます。係長さんが「子育てが終わった看護師さんが大学院で学んで専門性を高めているよ」と教えてくれました。資格は得たのだから、急がなくても、いつか自分がしたいと思った時にできればいいかと思うようになりました。今は、英語の勉強を継続していきたいです。

最近、患者さんの回復に向けて、自分で考えて看護ができるようになり「看護がおもしろい」と思えるようになりました。NCLEXに合格したことで、達成感もありますが、「何があってもできるかも!」という気持ちが持てるようになりました。



学生時代の徳武さん
（写真中央）

在学生へのメッセージ

在学時は、DMAC（災害支援サークル）に所属し、災害ワークショップ等に参加しましたが、語学研修など様々な活動をもっとやっておけばよかったと思いました。大学の4年間ほど自由な時はないので、遊びや勉強も「やりたい」と思うことをやって、自分の可能性を広げてほしいです。

04 学生生活

RCT☆LINK

3年 伊藤 璃胡

吹く風に冬の到来を感じるこの頃、皆さんいかがお過ごしでしょうか。この原稿を考えている今、私は領域別実習に向けてこれまでの学びを振り返っています。授業や実習、試験を仲間と共に乗り越えていく大学生活はとても早く感じます。その中で達成できたことがあります。それは、いとすぎ祭を成功させたことです。

私は自治会の企画部長としていとすぎ祭の運営に携わりました。新型コロナウイルスの感染対策を考慮しながら、昨年よりもどれだけグレードアップできるのか、実行委員や担当の先生と何度も話し合いを重ねました。しかし、授業や課題と並行しながら進めていく事は決して楽なことではありませんでした。時には投げ出したくなる時もありました。ですが、心待ちにしている学生や、成功を願って共に考えている実行委員や先生の気持ち、自分自身も絶対にやり遂げたいという思いが強くあったからこそ、頑張ろうと思いました。当日はハプニングもありましたが、その都度、多くの方々の力を借りて成功させる事ができました。

▼いとすぎ祭実行委員の仲間（上段左から3番目が伊藤さん）



いとすぎ祭を通して学んだことがあります。それは、協力し合える仲間がいて、自分自身の強い意思があればどんな困難も乗り越えられるという事です。そして乗り越えられたという達成感はとても大きく、次に挑戦する力になります。決して楽ではありませんでしたが、良い思い出となりました。これから実習や国家試験、就職してからもたくさんの挑戦が待っていると思います。そんな時は周りの力を借りながら、感謝の気持ちを忘れず、自分の心と向き合いながら成長していきたいです。

⇒次回RCT☆LINKは3年 酒井未来さんです

写真で見る学生生活

「キャリア支援室」



▲キャリア支援室長である
伊藤明子特命教授

「“キャリア支援室”って何？」と思われる方もあるかもしれませんね。“キャリア”の定義は様々ありますが、D.T.Hallは「人の生涯にわたり、仕事に関連した諸処の体験や活動を通して個人が自覚しうる態度や行動のつながり」と定義しています。つまり主人公は、学生のみなさん一人ひとりです。みなさんは、自分にとっての生涯設計（キャリア・デザイン）を描きながら、学生生活の中で、看護職としてのキャリアを形成していきます。

「キャリア支援室」では、様々な場面を通して、学生の皆さんが思い描く夢や思いを聴きながら、少しずつ具体的なキャリア・デザインが描けるように支援しています。また、様々なキャリアをもつ方々との出会いやお話を聞く機会も提供します。学生のみなさんのご利用をお待ちしています。

■ 新企画「研究のトビウを開く」

教育機関でもあり研究機関でもある日本赤十字豊田看護大学。今号より、本学教員が行っている研究内容やその成果を紹介します。第1回目は専門基礎領域の森田一三教授（歯科医師）です！

「口腔機能低下症を予防可能な疾患とするための基礎研究」

口腔機能低下が食環境の低下をもたらし、身体機能低下、そして要介護状態を招くことが先行研究で明らかにされています。しかし、加齢による口腔機能の推移の実態は十分に明らかにされていませんでした。そこで、岐阜県歯科医師会、金城学院大学との共同研究で地域住民の口腔機能の低下が始まる年齢の推定を行いました。その結果、30歳頃から口腔機能の低下が始まる可能性が示されました。壮年期から口腔機能の低下への対応を図ることで、将来、要介護状態に陥ることを防ぐことが可能になるかもしれません。そして、人々が口腔機能の低下が高齢になる前から始まることを知ることで、口腔機能低下症を予防できる疾患にすることが期待されます。

この研究の論文は札幌で開催された第54回日本歯科医療管理学会総会・学術大会で、日本歯科医療管理学会賞 最優秀賞を受賞しました。（日本歯科医療管理学会雑誌、58(2) 116-121、2023）



▲授賞式での森田教授（写真左）

05 Information

Event (11月～3月)

11月	30日(土)	推薦選抜・社会人特別選抜 試験日	2月	14日(金)	保健師国家試験
12月	12日(木)	愛知県赤十字大会		15日(土)	第2回大学院入学試験
	28日(金)	冬期休暇[～1月5日(日)]		16日(日)	看護師国家試験
1月	25日(土)	大学独自選抜特待生プラス 試験日	3月	4日(火)	大学入学共通テスト利用選抜(後期) 試験日
				12日(水)	学位記授与式

令和6年度公開講座・専門職向け研修会日程(11月～3月)

■ 公開講座

日 時	領域・講師	テーマ	備 考
令和7年3月10日(月) 10:30～12:00	老年看護学領域	飲み込む力でおいしく長生き ★嚥下スクリーニング検査(飲み込む力の簡易的検査)や嚥下障害予防体操、講義を行います	対面開催 (本学)

■ 専門職向け研修会

日 時	領域・講師	テーマ	備 考
令和6年12月14日(土) 10:00～11:30	久留米大学医学部医療検査学科 久留米大学バイオ統計センター 室谷 健太教授	データを取りまとめるために必要な統計学を学ぼう	オンライン開催
令和7年3月8日(土) 10:40～11:10	老年看護学領域 小林尚司教授	研究成果の実践への活用(質的研究)	対面及び オンライン開催

※講座や研修会の詳細・申込に関しては本学ホームページをご覧ください

令和5年度 事業活動収支計算書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

■事業活動収入の部 (単位:円)				
区分	科 目	予 算	決 算	差 額
教育活動収入	学生生徒等納付金	895,389,000	879,007,500	16,381,500
	手数料	23,895,000	17,234,000	6,661,000
	寄付金	23,970,000	2,994,275	20,975,725
	経常費等補助金	167,812,000	157,990,400	9,821,600
	付随事業収入	965,000	736,700	228,300
	雑収入	4,375,000	6,840,667	△ 2,465,667
	内部取引	4,330,000	6,679,088	△ 2,349,088
	教育活動収入計	1,120,736,000	1,071,482,630	49,253,370
教育活動外収入	受取利息・配当金	9,527,000	10,461,583	△ 934,583
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	9,527,000	10,461,583	△ 934,583
特別収入	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	350,000	19,671,980	△ 19,321,980
	特別収入計	350,000	19,671,980	△ 19,321,980
	事業活動収入計	1,130,613,000	1,101,616,193	28,996,807

■事業活動支出の部 (単位:円)				
区分	科 目	予 算	決 算	差 額
教育活動支出	人件費	690,722,000	647,794,635	42,927,365
	教育研究経費	403,891,000	374,836,203	29,054,797
	管理経費	89,512,000	85,033,168	4,478,832
	内部取引	17,485,000	17,666,242	△ 181,242
	教育活動支出計	1,201,610,000	1,125,330,248	76,279,752
教育活動外支出	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
特別支出	資産処分差額	0	1,924,166	△ 1,924,166
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	0	1,924,166	△ 1,924,166
	事業活動支出計	1,201,610,000	1,127,254,414	74,355,586
	基本金組入前当年度収支差額	△ 70,997,000	△ 25,638,221	△ 45,358,779
	基本金組入額	△ 149,330,000	△ 30,226,196	△ 146,827,804
	当年度収支差額	△ 220,327,000	△ 55,864,417	△ 192,186,583

令和5年度決算は、日本赤十字学園職員退職一時給与金等支給規程の改正による退職金計算方法の変更から、人件費支出が予算額より少ない結果となりました。また、教職員用PCの更新における入札による支出の減や、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う感染対策物品購入費用の減などにより、70,997,000円の赤字予算に対し、25,638,221円の赤字決算となりました。

サポーターズ募金(寄付金)

教育研究環境充実のための設備や教育資材等を適時適切に整備し、十分な教育環境と学生生活の支援を学生に対して行うことを目的として、日本赤十字豊田看護大学サポーターズ募金“いとすぎ募金”を創設いたしました。

“いとすぎ募金”の趣旨をご理解・ご賛同いただき、皆様からのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【活用方法】①教育活動の充実 ②研究活動の充実 ③奨学金制度の充実 ④学生生活の支援
⑤施設整備の充実 ⑥社会連携の推進

【募集期間】毎年度募集(随時受付)

【募資金額】個人1口 5,000円

法人1口 10,000円 ※1口から10口程度お申込みいただけますと有難く存じます。

【申込方法】本学ホームページより「寄付申込書」をダウンロードいただき、本学経理課あてにE-mail・FAX・郵送いずれかの方法によりお申し込み願います。

【税制上の優遇措置】本学への寄付金は税制上の優遇措置(寄付金控除)を受けることができます。

※詳細は本学ホームページトップ画面にあります「ご寄付のお願い」をご確認ください。

令和7年度入試情報(2025年4月入学者向け)

日本赤十字豊田看護大学は80余年の歴史を持つ中部圏唯一の赤十字の看護大学です。医療・保健・福祉から災害救護や国際活動まであらゆる現場で活躍できる看護師をめざせるよう、災害看護や国際交流、実習に力を入れたプログラムを用意しています。看護教育に特化した充実した学修環境の中で、看護の知識と技術をしっかりと身につけることができます。

一般入試(大学独自選抜特待生プラス・共通テスト利用選抜)の出願は令和7年1月6日から!学生全員が同じ夢を持ちモチベーション高く学び合える本学で、一緒に看護師を目指しませんか?

試験名	出願期間	試験日	合格発表日
大学独自選抜特待生プラス	1/6(月)~1/17(金)	1/25(土)	1/31(金)
大学入学共通テスト利用選抜(前期A・B)	1/6(月)~1/23(木)	個別試験なし	2/7(金)
大学入学共通テスト利用選抜(後期)	1/6(月)~2/21(金)	3/4(火)※面接	3/7(金)
大学入学共通テスト利用選抜 (赤十字6看護大学連携併願選抜)	2/1(土)~2/18(火)	個別試験なし	3/3(月)



▲入試一覧表(PDF)

注:入試科目等の詳細は必ず本学ホームページ「入試情報」や募集要項をご覧ください。

SNSにて情報発信中

入試情報やイベント情報などを発信しています。ぜひフォローをお願いします!

LINE公式アカウント



Instagram



X



愛知県内赤十字施設共同Instagram



編集後記

今号では、いとすぎ祭のDMAC被災地復興支援企画や新卒者交流会、研究紹介などを取り上げました。被災地復興支援企画では、学生たちが“赤十字の看護学生として、今、自分たちにできることは何か”を考え、一生懸命取り組む姿がありました。今年度初の試みである新卒者交流会では、久しぶりの仲間・教員との再会に卒業生の笑顔が咲き誇り、明日からの元気につながったように思います。

また、今号からの新企画である「研究のトビラを開く」では、森田一三教授の「口腔機能低下症を予防可能な疾患とするための基礎研究」を紹介しました。今後も、本学教員の研究活動について紹介していきますので、楽しみにしてください。

本誌の執筆にご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

いとすぎの丘

Vol.40

発行日/2024年11月

編集・発行/日本赤十字豊田看護大学

入試・広報委員会、企画・地域交流課

〒471-8565 豊田市白山町七曲12-33

TEL 0565-36-5111(代表)

FAX 0565-37-8558

E-Mail kikaku-ka@rctoyota.ac.jp

HP <https://www.rctoyota.ac.jp/>